ＡＢＣＨｓ評価からみたハーブの未来

１．はじめに

コロナ禍において園芸によって癒された多くの消費者がいる中、非常に興味深い園芸品目が気になった。それは、ハーブである。ハーブとは一般的に香り、味、刺激性がある食用や薬用、虫除けに使われる植物のことである。近年の健康ブームにより、国民の注目度があがり、料理、鑑賞、美容や健康、香りなど分野に取り入れられ、今では様々なハーブが流通している。

２．研究の目的

ハーブの幅広い魅力に感銘を受けたと同時に、それぞれの目的が微妙に錯綜しているとも感じた。この錯綜を整理してそれぞれの目的をよりはっきりさせる事で、ハーブの魅力を最大限に生かせ、ハーブの利用は、まだ魅力が広がるのではないかと考えた。

そこで、ハーブに関するさらなる可能性を考察するのがこの研究の目的である。

３．研究の方法

この研究は、先述の通り、ハーブの利用の実態をいかに分かりやすく見える化するかがカギになると思った。参考になったのが、SDGs であった。持続可能な開発という、幅広い分野に対して、17 の目標をたて、課題をうまく整理していると感じた。そこで、ハーブの活用や活動も SDG ｓのように整理できないかと考えた。本研究は幅広いハーブの利用を、鑑賞（appreciation)、美容（beauty)、料理（cooking)、健康（health)、香り（smell）の５つに分けた。この５つの項目の頭文字をとって、ＡＢＣＨｓと名付け、実際にハーブを利用して活動している企業や団体や個人を取材して、調査することとした。

４．研究場所

今回、日本リコス株式会社（広島県福山市)、古戦場フジバカマプロジェクト（岐阜県関ケ原)、アロマテラピー講座（愛知県江南市)、東三温室園芸農業協同組合（愛知県豊川市)、花友フェスタ（愛知県名古屋市）の５つの事例について、ＡＢＣＨｓを使って、それぞれの活動を評価・検証することにした。

５．内容

（１）日本リコス株式会社（広島県福山市）

日本リコス株式会社はステビアを加工し、ステビアヘルスという機能性食品として販売している。令和４年６月 24 日、リモート会議にて話を伺った。

（写真 - 1）リモート会議の様子

（２）古戦場フジバカマプロジェクト（岐阜県関ケ原）

古戦場開戦地北側にある休耕地にフジバカマを植えることにより、アサギマダラという蝶を呼び寄せて、新たな観光面の目玉にしようとする関ケ原町開戦地景観整備事業が関ヶ原ゼネラルサービス株式会社から立ち上がり、参加した。（**写真 - 2**）

（**写真 - 2**）植栽の様子

（３）アロマテラピー講座（愛知県江南市）

アロマテラピーに関する体験教室がフラワーパーク江南ハーブ展で開かれていることを知り、訪れた。講座の講師を行っていた足立多實子先生に多くの話聞けた。（**写真 - 3**）

（**写真 - 3**）ハーブ展

（４）東三温室園芸農業協同組合（愛知県豊川市）

東三温室園芸農業協同組合では、1996 年頃から大葉の栽培と並行して同志５～６人ほどで始めたハーブ栽培を本格化した。今回、施設、流通の現状を知るいい機会だった。

（**写真 - 4**）

（**写真 - 4**）ヒアリング

（５）花友フェスタ（愛知県名古屋市）

ポートメッセなごやで行われた園芸の祭典、花友フェスタではハーブの出展者の方もいたため取材を行った。特殊なハーブを育てているサンクスグリーン　高木宏明氏と有限会社　稲垣ナーセリー稲垣信之氏から話を伺った。（**写真 - 5**）（**写真 - 6**）

（**写真 - 5**）サンクスグリーン

（**写真 - 6**）稲垣ナーセリー

６．考察およびまとめ

事例	評価
日本リコス株式会社	料理、健康
古戦場フジバカマプロジェクト	鑑賞　香り
アロマテラピー講座	美容、健康、香り
東三温室園芸農業組合	料理
花友フェスタ	鑑賞、料理

今回関わった人々の活動がある限りハーブの消費拡大が見込まれると確信できた。

調査・分析の過程においてＡＢＣＨｓでカバーしきれなかった新たな目標が今回の研究で考察した。それは、環境保護、メンタルヘルスという目的であった。

以上でハーブの将来性を期待してまとめとする。